

令和2年度 第2回金沢市入札制度評価委員会の審議概要

開催日及び場所	令和2年8月28日(金) 金沢市役所 第1委員会室		
委員 (委員数5名) (出席数5名)	委員長 米田 満(公認会計士) 委員 松本 樹典(金沢大学教授) 委員 本間 学(金沢大学准教授) 委員 西村 督(金沢工業大学教授) 委員 栗田 真人(弁護士)		
次第	1 開会 2 審議案件 (1) 工事等に係る入札・契約手続きの運用状況等について ア 令和2年4月1日から令和2年7月31日までに係る本市発注工事及び工事関連委託業務の結果について イ 入札参加資格停止の運用状況及び談合情報への対応状況について (2) 工事成績評点の入札参加資格要件での活用について (3) 委員があらかじめ抽出した案件に係る業者選考等の経緯について (令和2年4月1日から令和2年6月30日) 3 閉会		
抽出案件	5件		
工事	制約付き一般競争入札	2件	・ 第5次安原異業種工業団地B工区造成工事 ・ 末浄水場フロキュレータ駆動軸修繕工事
	随意契約	1件	・ 東金沢駅西口昇降機修繕工事
委託	制約付き一般競争入札	1件	・ 金石中学校地下貯留施設実施設計業務委託
	指名競争入札	1件	・ 令和2年度 臨海水質管理センター沈砂池ポンプ棟機械電気設備更新実施設計業務委託
審議内容	別紙のとおり		
委員会による報告又は意見の具申	令和2年度第1四半期の発注工事等に係る入札・契約手続きの運用については、適正に行われていると判断する。		

(お問合せ) 〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号
金沢市総務局監理課 工事契約係
電話:076-220-2101

委員からの意見は、概ね次のとおりであった。

工事及び委託業務の業者選考等が適正に行われていることを確認した。

昨年度、国や石川県と同様に最低制限価格の上限の見直し等を行っているため、これらの影響等について検証するとともに、引き続き国や石川県、中核市等の入札制度の状況も踏まえ、注視してほしい。

意見の詳細は、次のとおり。

質 疑 ・ 意 見	応 答
<p>1 工事・委託業務に係る入札・契約手続きの運用状況等</p> <p>○ 予定価格の事前公表・事後公表と最低制限価格同額でのくじ引き件数の間に相関はあるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中核市の制度状況をとりまとめて分析したところ、明確な相関は見受けられず、各都市それぞれの個別事情が影響しているものと考えている。予定価格の事前・事後公表に関わらず、国や県において積算単価が広く公表されていること、事業者の積算精度が高くなっていること等から、最低制限価格と同額での応札はいずれにおいても起こり得るものと理解している。 今後も他都市との制度の比較を通じて、入札制度について引き続き検証を行っていきたい。
<p>2 委員があらかじめ抽出した案件に係る業者選考等の経緯について</p> <p>第5次安原異業種工業団地B工区造成工事</p> <p>○ 入札参加者が32者と非常に多いが、本工事の特殊性に由来するものなのか。</p> <p>末浄水場プロキユレータ駆動軸修繕工事</p> <p>○ 一般競争入札の案件だが、1者のみの参加となっている。難度の高い工事だったのか。</p> <p>東金沢駅西口昇降機修繕工事</p> <p>○ 昇降機の修繕に係る随契約の案件だが、東金沢駅の完成から、これまでも何度か定期修繕を実施しているのか。また、落札額が予定価格とほぼ同額となっているが、原因をどう分析しているか。</p> <p>金石中学校地下貯留施設実施設計業務委託</p> <p>○ 応札状況について、最低制限価格付近と予定価格の95～98%付近との2グループに分かれていると見受けられるが、二極化した原因についてどう考えるか。</p> <p>令和2年度 臨海水質管理センター沈砂池ポンプ棟機械電気設備更新実施設計業務委託</p> <p>○ 参加者8者のうち5者が辞退しているが、この原因は。また、残り3者のうち2者が予定価格と同額で応札しているが、予定価格の設定は適切であったと考えているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本工事は工業団地内における造成工事であり、工事に伴う道路規制がほぼ必要ないこと、大部分の工事が施工箇所が仕切られた場所で行われることなど、施工性が良い工事であることが要因であると推察している。 製作する機械器具の構造自体はシンプルで、設置に関しても水を抜いての作業となるため、特段難しい工事ではない。しかしながら、当該工事と同内容の経験がない業者にとっては、修繕のノウハウが少ないため、受注をためらう傾向があるのではないかと推察している。 当該昇降機は平成14年10月に供用開始となり、これまで定期点検等の保守は実施しているが、大規模な修繕は今回が初めてである。 落札率が高い原因として、機器費等について一部見積もり単価を採用していること、一般的な昇降機修繕工事であり精度の高い積算が可能であったことがあると考えている。 最低制限価格付近で応札している業者は、市内で同様の地下貯留施設における実施設計で複数の受注実績がある者や、これまでの同種設計業務の入札全てに参加している者であり、受注意欲が特に高かったことが結果に表れているとの推察している。 辞退理由を確認したところ、技術者の配置が困難であるという理由が多数を占めており、本業務のような下水施設の設計には下水設備特有の知識や下水道事業に関する総合的な知識が必要であることから、事業に精通した技術者の配置が難しかったのではないかと推察している。 加えて、今回の臨海水質管理センターは石川県内でも大規模な終末処理場ということで、難易度が高い業務であったこともあり、予定価格付近での応札に至ったものと考えており、予定価格の設定自体は適切であったと判断している。